

会 議 録

1 会議名

令和2年度第6回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・上越地区における広域最終処分場の整備に向けた候補地検討委員会の進捗状況等について（公開）
- ・地域協議会会長会議について（公開）

【協議事項】

- ・自主的審議事項について（公開）

3 開催日時

令和2年12月4日（金）午後6時30分から午後8時02分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 坪田 剛（会長）、金森幸雄（副会長）、安達麻美、齊藤徳夫、佐藤寿美子、佐藤峰生、田村 隆、寺島和枝、荷屋和夫、平野コトミ、水寫豊秋（欠席者1名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小池係長、霜越会計年度任用職員
新潟県廃棄物対策課：渡邊哲也課長補佐、渡辺謙一副参事、佐藤慶一主事
生活環境課：瀧本課長、久野副課長、永野主幹

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：田村委員に依頼

議題【報告事項】「上越地区における広域最終処分場の整備に向けた候補地検討委員会の進捗状況等について」について、県の廃棄物対策課へ説明を求める。

【新潟県廃棄物対策課：渡邊哲也課長補佐】

- ・挨拶
- ・資料No.1 「上越地区における広域最終処分場の整備に向けた候補地検討委員会の進捗状況等について」に基づき説明

【坪田会長】

説明に対して、質疑を求める。

【佐藤峰生委員】

最終処理場と聞くと地権者以外の方は、汚い、危険、自然破壊に繋がるというようなイメージがあり抵抗を示すと思う。私もその1人だった。しかし、地域協議会の委員になって少し考え方が変わってきた。今は地域の人達も、アレルギー反応をできるだけ持たないで説明を聞けないかなと思う。そのためには、説明の中でエコパークいずもぎきの話が出たが、約20年も前から供用が始まっている。エコパークいずもぎきの地元の皆さんが、この施設を受入れた経過と、これまで20年間運用した中で「このようにしていろいろな課題に取り組んできた」、「安全安心な施設として供用が進んでいる」ということが分かる資料と、地元が受け入れるにあたって、どのような経過をたどり、どういう意見があったのか。この20年で、受け入れて良かったことと、悪かったこと。エコパークいずもぎきを受け入れたことにより恩恵が何かあったのかを、説明資料の中に盛り込んでいただければ、候補地の地元の方々から安心して聞いていただけると思う。

これからいろいろな説明が行われ、ステップを踏んで最終的に候補地を決めることとなり、エコパークいずもぎきの見学も予定されているが、その前の段階で皆さんが知識を持っていれば、ある程度アレルギー反応を持たないで説明を聞いてもらえるのではないかな。

【新潟県廃棄物対策課：渡邊哲也課長補佐】

おっしゃるとおりである。今後もいろいろな地域に説明に入っていくが、その場でいただく意見は我々の財産になっていると思う。

別の会議では、本当は現地に行けば一番良いが、例えばビデオなどを使って説明するのも良いのではないかと、とのアドバイスもいただいている。今ほどのアドバイスも加味しながら、できるだけ分かりやすい説明に努めていきたいと考えている。

【坪田会長】

他にはいかがか。

【田村委員】

私はこの話を初めて聞いたので少し驚いている。

今から10年ぐらい前、谷浜地区の西部地区に最終処分場を造らないかという話があったような気がする。その時はおそらく地元の反対があり、計画自体がなくなったと記憶しているが、それがまた復活したという意味合いなのか。その辺がよく理解できていない。

資料の地図を見ると上越市の中でも、どちらかというところ中山間地に候補地が集中しているように見えるが、最終処分場であれば海洋にきちんとしたベースを造り、そこに埋め立てれば処理できるのではという個人的な考えもある。例えば東京都で言えば、「夢の島」のようにごみを埋めて土地を造成し、オリンピック関係の施設などを整備しているとすれば、それも一つの方法ではないかとも考える。費用を考えれば、かなり高額になると想定できるが、その辺の考えはあるのか。

【新潟県廃棄物対策課：渡邊哲也課長補佐】

田村委員がおっしゃった谷浜地区の西部というのは茶屋ヶ原のことだと思うが、確かにそのような話があった。資料の2枚目の左側に「基本的な考え方」として経緯を記載している。その丸の二つ目に「上越地区では平成19年、上越市が宮野尾地区を適地として公表し…」の部分があるが、この話の前に県が茶屋ヶ原を候補地として進めようとしていた経緯がある。これについては、地元からの理解が得られず一旦静観しようという形で、その当時から動かなくなったという経過がある。

前回の反省点としては透明性がなく、地域住民の理解が得られない中で計画づくりを進めてしまったということがあるので、今回は検討委員会における選定の経緯を含めて説明し、透明性を確保しながら進めていかなければいけないと考えている。

次に、埋め立てして土地を造成することについては、確かに東京都に「夢の島」という、一部ごみを埋め立てた場所がある。東京湾は非常に波が静かであることから、陸地で埋め立てする場所を確保するのが難しい東京都では、高額にはなるのかもしれないが、海上埋め立てが最適だとした経過がある。新潟県の海は、夏は比較的波は静かだが、冬になると荒れるため東京都のように海を埋め立てて利用するのは難しい上、どうしても費用が高額になるので、内陸に整備するという形を取らざるを得ない状況である。

【田村委員】

この経緯の中で、上越市が誘致を表明したというようなことが書いてあるが、上越市がぜひ来てくださいという言い方なのか。資料からすると、県内では、例えば長岡や新潟は一切動かなかつたが、上越市だけは、ぜひ来てくださいという状況であったのか。

【新潟県廃棄物対策課：渡邊哲也課長補佐】

このこと的前提として、上・中・下越の各地域に公平に造りたいという大きな方針がある。中越では、エコパークいずもさきで事業を続けているが、上越では当時の上越広域行政組合から、一般廃棄物と産業廃棄物との一緒の最終処分場を整備していただきたいという話があった。そのような経緯を踏まえて、上越市内で整備を進めている。

【生活環境課：瀧本課長】

今ほどのご質問だが、上越市としては宮野尾地区で整備を目指したという経緯があるが、この時も上越市の一般家庭から出る一般廃棄物の最終処分場と新潟県内の産業廃棄物の最終処分場との共用型の整備をお願いした経緯があるが、宮野尾地区については下流域の皆さんのご理解が得られず、ずっと膠着状態が続いて、平成30年6月に整備を断念した。上越市としては、現在、一般廃棄物を処理する新しいクリーンセンターができ、焼却灰の処分量も少なくなっているので、市としては処分場の整備は行わないということとなり、宮野尾地区における整備の計画については、取り下げたという経緯がある。

現在は、新潟県が上越地区で広域最終処分場を整備するという取組が行われているので、上越市としてはその施設が整備された時に上越市の一般廃棄物もそこで処分をしていただくという考えのもと、今、新潟県の取組に協力しているという状況である。

【田村委員】

上越市としては自分たちのごみを処理するために宮野尾地区に処分場整備の計画をし、それに相乗りする形で県もしたということによろしいか。上越市としてはいらなくなっ

たからということかと思ったが、違うか。

【生活環境課：瀧本課長】

宮野尾地区については、平成13年に新潟県が茶屋ヶ原で整備を目指したという経緯があるが、そちらの取組が進まなかったため、一旦状況を見るという形となった。だが、上越市として家庭から出る一般廃棄物を埋め立てする処分場も必要だと考えていたことから、宮野尾地区を選定し、そこに整備することに併せて新潟県の産業廃棄物の処分場も共用型という形で一緒に整備をする取組を進めたということである。宮野尾地区は平成30年6月に整備を断念したので、今回改めて新潟県が産業廃棄物の処分場を整備するという取組を進めている。

【田村委員】

上越市としては、県に対して要望したことがまだ残っているということか。

【生活環境課：瀧本課長】

市だけではなく産業界でも、やはり上越市に最終処分場が必要だということで、昭和56年に産業界と一緒に協議会を立ち上げ、それが今も続いており、経済活動や産業面でも産業廃棄物の処分場は上越市に必要なものであるとの考えである。

【田村委員】

経緯は承知した。過去において断念したが、過去に要望したことがそのまま生きている、だから県とすれば上越市から誘致されたことがあったので、今計画を作っているということで理解する。

【坪田会長】

ほかに質疑を求める。

【金森副会長】

1点目、産業廃棄物処理は排出事業者の責任において行うのが原則だという説明があった。このグラフを見ると、自社処分しているのが0.2%で半数以上がエコパークいずもぎきで処理している。この0.2%という数字は全国に比べて妥当な割合なのか。

2点目は、エコパークいずもぎきがこれまで稼動してきた中で、何かトラブルがなかったのか。その反省点が他の処分場建設に役立っているのか。そういう事案があれば知りたい。

【新潟県廃棄物対策課：渡邊哲也課長補佐】

1点目の自社処分の0.2%が妥当かどうかは、確かに法律上、産業廃棄物は排出者

が責任を持って片付けるという形になっている。ただ、この法律の読み方として必ずしも出した人が自分で許可を取って、地中に埋め立てるという話ではない。実際に自分の土地に埋め立てをしている人は0.2%ほどいるが、大体は産業廃棄物処分の専門業者に頼んで処分をしている。その処分を行っているのがエコパークいずもざきと民間の処分場であり、これらの分を除いた数値となる0.2%が多いのか少ないのかという比較は、なかなかできない。

現状として、排出責任というのはそのように読んでいただければと考えている。

2点目のエコパークいずもざきが開業してから何かトラブルがあったかについては、廃棄物の中で問題が一番多いのは焼却灰であり、灰には塩分が多く含まれているので、それがそのまま埋め立てられると、塩はそのまま水に溶け下流に流れてしまう。塩分を取り除かなければいけないという基準はないが、塩分が流れたことによって下流の田んぼの耕作に影響を及ぼし、苦情が出て、対応したという事例がある。多額の費用をかけて塩分を取る装置を導入し、その問題は解決した。

また、周辺環境の問題では、廃棄物は若干の臭いがあるため、下流の住民の方々からご指摘をいただき、これについても脱臭装置を処分場の中に設置し、現状では、問題ないと住民の方々から言われている。

トラブルについては、主に以上の2点である。

【水島委員】

個人的な意見だと思って聞いてほしい。この地域は、大変自然豊かな地域である。山は上越市の水源地となっており、鮭ものぼる豊かな川がある。また海は海水浴場にもなっている有名な地域である。この自然豊かな地域で、最終処分場の話が起きているわけだが、良いものは都会に、嫌なものは田舎にというのが世の中の常かと思う。

もし、地元の同意が得られて、この地域に最終処分場が造られるとしたら、この地域も他の地域と変わらず過疎化が進んでいる地域なので、観光資源になってこの地域を活性化させるような立派な施設を造っていただき、その他にも多少雇用が生まれるかと思うが、その点においても地元優先で雇用してもらえるような、この地域に貢献できるような施設ができれば地域の皆さんも喜ぶのではないかと思う。是非、心にとめておいていただきたい。

【新潟県廃棄物対策課：渡邊哲也課長補佐】

大変貴重なご意見をいただいた。今ほどの意見は参考にさせていただく。

【坪田会長】

ほかに意見を求めるがなし。

以上で「上越地区における広域最終処分場の整備に向けた候補地検討委員会の進捗状況等について」を終了とする。

— 新潟県廃棄物対策課、上越市生活環境課 退室 —

次に【報告事項】「地域協議会会長会議について」事務局へ説明を求める。

【中村センター長】

11月25日（水）に開催された「地域協議会 会長会議」の内容について報告させていただく。

・資料No.2「地域協議会会長会議 次第」、

「令和3年度地域活動支援事業について（案）」に基づき説明

当日は、坪田会長からご出席していただいたが、補足説明等があればお願いしたい。

【坪田会長】

当日は熱気があり、野澤副市長の講話の後の質問についても、活発な質問や意見等々が挙げられていた。そのあと3グループに分かれてグループ討議が行われた。50分という時間だったが、いろいろ議論する中においては、やはり時間が若干短いように感じた。いずれにしても、皆さん活発な意見や、はっきりした言葉で素晴らしい意見を言われていた。

他にも皆さん口々に委員の立候補者がいなくて大変苦慮しているというのがあった。春日区については、20名中、前期の委員が2名しかおらず、18名の新しい委員を選出するのに大分苦勞したという話も聞いている。谷浜・桑取区も前期委員の半分が今期の委員として残ったが、あとの半分については新しい方々である。そして、やはり13区の中で、安塚区の会長が、やはり合併しないほうが良かった、どんどん過疎化になる、どうしたら良いのかと話されていたが、谷浜・桑取区の話をしたら、同調した部分もあり、いろいろ意見交換をした。

もう1点、浦川原区についてだが、浦川原区の小学校が3校あったのが1校になったため、地域が一つになったという意見が出た。谷浜・桑取区も2校が1校になったが、まだまだ地域が一つになれていない部分が正直ある。これから谷浜・桑取区地域協議会内で協議していきながら谷浜・桑取区が一本の線になって、そして活性化を求めてやっていくのが、今の地域協議会のあり方なのかな、と個人的にはそう感じた。

説明に対し、質疑を求めるがなし。

次に【協議事項】「自主的審議事項について」事務局へ説明を求める。

【小池係長】

前回の会議において、谷浜・桑取区地域協議会では、自主的審議事項のテーマ「地域の子育て支援について」は終了ということで、また新たな委員の皆さんで新しい課題を探っていこうということになった。

1月8日には視察研修を行い、地域活動支援事業を活用して実施した場所や自主的審議の参考とするために白山神社やくわどり市民の森、たにはま公園等を見てきた。

本日は、その視察研修に参加され、見てきたところの感想等をお聞かせいただき、また新たにこういうテーマについて地域協議会で話し合っていたらどうかという意見があればお伺いしたいと思っている。

【坪田会長】

では、金森副会長から順番にお願いしたい。

【金森副会長】

天候は良くなかったが、皆さんと楽しく現地を回ることができて良かった。私が地域協議会に参加して半年だが、よく分からないうちに半年が過ぎた。だが、皆さんと審議した中身が、こういう形で表れているのだなと思った。やはり現地を見ることは非常に良いことだと思った。

地域活動支援事業の提案が出されて審議に入る前に対象の現場をきちんと見て、それから審議に入ったほうが良いのではないかと思った。今後少しでも役立てる方策を皆さんと考えてやっていきたい。

【佐藤峰生委員】

視察研修は、前年度と今年度を実施された場所を見てきたが、過去5年間くらい遡って、過去にこういうものが提案されたというのを、この場で拡げて、この実施例とこの実施例を繋げたらどうなるのかというような検討を今後是非やってほしいと思った。委員の皆さんで、それを議論して自主的審議事項のテーマが決まる。そのテーマについて関係する団体等から集まっただきプランを練り上げ、最終的には、こういう結果が出たという数字等が見た目で分かるような結果が出れば良いが、その一番の例が私もあの場でお話したと思うが、くわどり湯ったり村の利用者が増えたという数字が出る。そういうところに最終的に結びつけていけるということになれば、この地域への訪れる人が増

える。活性化とは直接は結びつかないかもしれないが、皆さんの知恵を集められたら良いのではないかと感じた。

【坪田会長】

いずれにしても、佐藤峰生委員が中心になって話し合っていき、審議の内容が決まり次第、内容を詳細にいろいろお聞かせいただければありがたい。

【平野委員】

参加して、とても良かった。

【水嶋委員】

この前の視察研修は大変有意義だったと思う。今、活性化が問題になっているが、それには、ここだけの話し合いではなく、地域の皆さんとなるべく広く意見を交わしたほうが良い意見も出ると思っている。あとは町内会長や学校関係者、いろいろな人と意見交換をする中で方向性を見出したほうが良い。この12人の中だけで意見を出しても、なかなか難しいのではないかと感じた。

【坪田会長】

自主審議の中において、昨年度までは子育ての関係を協議してきた。今の町内や状況を見ても、やはり過疎化の一途である。そしてくわどり湯ったり村も平日休業というような状態であり、農協も移転するような話を聞いている。ますます過疎化の一途を辿るばかりである。谷浜小学校や潮陵中学校がせっかく1つにまとまったが、地域全体がまとまらないまま、また小・中学校の統廃合の問題が実際浮上している。これがどうなるか否かは今後の課題になるが、ただ、野澤副市長が教育長の時に潮陵中学校に何度も来ていただき、統廃合の問題で話をしていたということは、いろいろお聞きしている。ただ具体的な内容が分からないので、ここで明らかにすることは難しい問題だが、小学校についても、国府小学校と合併するのではないかという話も聞こえてくる。こういった中で谷浜・桑取区がどうすれば活性化に結びつくのかということは、先ほどの佐藤峰生委員の話ではないが、いろいろ案を持っている。それで高住多目的研修センターの跡地にジビエの話だったり、桑取に行くまでの間に活性化に結び付くようなものをつくったりすることによって、一つの道ができて良い方向に進んでくれれば良いと思っている。そのためには、やはり谷浜・桑取区で話し合いを行っていく自主審議事項が必要だと思っている。

会長会議の中でも決まっていない区が幾つもあり、なかなか決めがたい部分があるよ

うだ。地域の課題を自主的審議事項として取り上げ、話し合いを行っていくことも地域協議会の役目としてあるため、皆さんと話し合いを行いながら決めていきたいと思っている。

今日どうしても決めなくてはいけないということではない。どのような方向づけをしたら良いだろうということで、皆さんのそれぞれの考えをお聞きしたい。

【田村委員】

今程説明のあった最終処分場の件だが、地域協議会に報告しに来られた意図は何か。

話を聞くと町内会長に対しては事前に説明されているという話だが、地域協議会で説明を受けたとしても決定権があるわけでもないのに何故、この場に来られたのかをお聞きしたい。

【中村センター長】

県の説明の目的は、県の事業として検討委員会を立ち上げていること。そして、第三次査定までいったところで、11か所に絞り込んできたということで、地元の町内会長、や地域の地域課題を検討している地域協議会にも説明をしていきたいということである。

また、過去のいろいろな教訓を得た中で、地元の説明をしながら、選定を進めていきたいということで説明に来られた。

【坪田会長】

地域に最終処分場ができるか否かは別だが、これが順番だと聞いている。地域の町内会長に話をし、次に地域協議会で説明するというのが、一つの順番というか、決まったものなのではないか。地域協議会は市長の附属機関なので、案件に対して議論したことを地域協議会に諮問した中で集約し、それをまた市に上げるという手順がある。今まで、逆だった場合もあった。地域のものでありながら地域協議会に先に報告し諮問までしているのに、それが何故町内会長に流れてこないのかという話もあった。

今回については順番的に、本来であれば地域のことなので町内会長にお話し、次に地域協議会に来て、また戻すという。そういう順番なのだと理解していただければ良いと思う。

【水嶋委員】

私も先日、町内会長協議会でこの説明を受けた。大きな問題なので、地域協議会で結論を出せる問題ではない。町内会長や地域全体で話し合うほうが良いのではないかと云ったら、そのあとにすぐ、町内会長会議に来られたので、それなら良いのかなと思った。

確かに田村委員が言うように、この場で結論出すとか、どの方向へ進むかは安易に言えるような問題ではないと思う。

【金森副会長】

私達は最終処分場の選考委員でも何でもないので、最終的に選考委員がどう判断するのか。環境的な影響はどうなのか。或いは生態がどうなのか、資源がどうなのか。いろいろ細かいデータを集めて、この地が最適だという結果を出すような動きになっていると思うが、私らが結果を出せるわけではないので、果たしてその結果が正しいのか、自分の感じていることと合っているのか、合っていないのかを判断する材料として、その環境の調査の結果を公表していただく。エコパークいずもざきで、こういう問題が発生して、こういうふう処理して、それを次に建設する最終処分場に生かしたとか、そういう具体例をいくつか積み重ねていけば良いのかと思う。ただ私が先ほど聞いた説明の中で感じたのは、塩が漏れたという話があったが、それはあくまでも住民からの指摘があって調査したら、そうでしたという話なのか。或いは、エコパークいずもざき側で定期的な調査に基づいて発覚した部分なのか。そういうものについても細かく公表していただければ、私らはこの難しい問題に対して判断できるきっかけの一つになるのではないかと思う。結論が良いのか、悪いのかというところまで判断できる材料を私たちはまだ持ち合わせていないと感じている。引き続きいろんな情報を公表していただくことが必要だろうと思う。ただ、町内会長が先とか、地域協議会が先とか、どちらがどうという話ではなく、広く同じ情報を共有できるということは大切ではないかと思う。

【安達委員】

私もこの場に来て初めてこういうお話を聞かせていただいた。全く分からない状態で説明を受けて、皆さんの意見も聞き、「なるほど」と思ってお話を聞いたところである。今後も皆さんからいろんな話を聞かせていただいて、まずは、内容を理解しなくてはという思いがある。町内会長から話が始まってこの地域協議会に話が来たという流れも分かったし、今後も話を聞いていく中で、私も一緒に考えていきたいなと思ったところである。説明していただいて良かったという思いはある。

【齊藤委員】

田村委員の言われているのも分からないでもないが、行政側の話の進め方が、ある程度システム化というか、決まっている話のもとで話が進んでいると私は理解している。いきなりだが、地元町内に説明会をやると言っても、行政はそんなに一気にはいかない

と思うので、ある程度、段階を踏んだ流れの説明という解釈でいる。

【佐藤寿美子委員】

エコパークいずもぎきは行ったことがないが、長岡や上越のごみ処理センターは見学に行ったことがある。とても良い施設だというのは分かったが、それが自分の地域に来るとどうなるのかというのが頭の中で整理ができない。また、話を聞いて自分で納得できるのかという気がしている段階である。

【佐藤峰生委員】

行政側の説明は、いきなり寝耳に水という話にならないように、地固めということだ
と思う。ここで結論出してほしいとか、町内会長が結論を出すということではない。そのように受けとめるべきだと思う。その程度である。

これから選考委員会で最終候補地を絞り込むわけだが、谷浜が残る可能性もある。そのように受けとめれば良い。ただ、谷浜がもし候補地に残ったということを想定して、私が地元の人たちに説明するにあたり、住民の方々から理解をしていただくためには、こういう内容の説明が必要だということで意見を述べた。そういう段階だと受け止めて良いと思う。何故この場で説明したのかということをとやかくいうことではないと思う。

【水嶋委員】

私も初めに知ったのは広報上越に記事が出ていたからである。それまで全く気にも止めなかったし、知らなかった。それですぐに町内会長の皆さんに説明があり、この地域が候補地に入っているということを知った。

今、皆さんが言われるように、今の段階で賛成とも反対とも言える立場にもないし、地元の同意がなければ、これはもう周りが何を言ってもどうにもならない。県や市のほうから丁寧に説明してもらって、同意が得られるのであれば、そういうのも仕方ないのかなという段階である。

【平野委員】

私も、ただ今回は説明されたのだというぐらいの感じである。

【荷屋委員】

説明会があったということだが、これは私も賛同するとかそういうのではなく、幅広く地域の皆様に、こういうことをやりたいというアピールだと思っている。

町内のことなのだから町内会長から説明を行うのが順序だと思っている。説明しないまま進めたら、いろいろ弊害も出てくる。最終的にどういう形になるか私は分からない

が、問題なく進められるようにきちんと説明していただくことが筋だと思っている。要は、この地域協議会も一つにならなくてはいけない。説明を受けて我々の意向を説明していけばそれで良いと思う。

【寺島委員】

谷浜・桑取区が候補に挙がっているということを今回初めて知った。はっきりとは決まっておらず、行政のほうで11か所に絞られたようだが、まだ谷浜・桑取区に決まったわけではないので、今日こういう説明を聞けて良かったと思う。

【坪田会長】

地域協議会の委員の皆様で思ったことを闊達に質問していただき、そして意見等々を出していただいて、それをまた一つにまとめて市に意見具申するのが、この地域協議会の使命、役目でもあるので、地域の意見として出していただいた。

【小池係長】

県の事業の説明であったが、決まってから地域の皆さんに報告するのではなく、丁寧に地元へ説明していきたいという思いから今日来られたのだと思っている。

これを機会に委員の皆さんが地域に戻り、こういう話があったと伝えていただければ住民の方々からも関心を持っていただき、自分たちの地域の問題なのだという認識を持っていただければ良いのかなと思っている。

皆さんから研修のご意見やご感想を聞かせていただいたが、いろいろなものも含めて「地域の活性化について」というテーマで話し合いをしても良いのではないかと感じた。

今日テーマを決めなくてはいけないというわけではないので、また次回以降、話し合いが出来ればと思っている。

【坪田会長】

では、そのようにしたい。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

次回の協議会については諮問等の案件はないため、会長と日程を調整し、決まり次第ご案内をさせていただきたい。協議内容については地域活動支援事業の採択方針等を決めていただきたいと考えている。併せて、来年度の地域活動支援事業募集説明会の日程を調整していただくことになるが、毎年3月の始め位に開催している。その場には町内会長や住民団体等、毎年、たくさんの方々から参加していただくが、提案までは、なか

なか結び付かない。だが、多くの方々から集まっていたく場でもあるので、先ほど水
嶋委員が提案されていた地域の皆さんとの意見交換会も併せて行ってみたいはどうかと感
じた。

【坪田会長】

確かに4月から話している中で、やはり地域の活性化というのが一つのテーマとして、
大きく挙げられているかと思う。ただ、いろいろな細かい部分が、たくさんあると思う
が、それを一つひとつ上げながら検討して解決策に結びつけたほうが良いと思ってい
るが、そういう方向づけでよろしいか。

(異議なし)

また、佐藤峰生委員が本当にいろいろなアイデアや意見を持っている様子が伺える。
そのアイデア等を話していただく時間を取りたいと思っているので、意見をまとめてき
ていただき、活性化に向けて協議をしていただければ非常にありがたい。

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp 1

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。